

ベスポンサ療法

血液内科

再発又は難治性の CD22 陽性の
急性リンパ性白血病

ID

患者名

身長

cm

体重

kg

体表面積

m²

初回 ・ 継続 (前回 /)

印

印

★投与量

計算値

●1クール目

ベスポンサ

0.8mg/m²

mg

点滴静注

60 分以上

Day1

ベスポンサ

0.5mg/m²

mg

点滴静注

60 分以上

Day8、15

●2～6 クール目

ベスポンサ

0.5mg/m²

mg

点滴静注

60 分以上

Day1、8、15

★ 点滴スケジュール

Day 1

投与 30 分前 プレメディ	生食 50mL+ ベスポンサ+ 注射用水(1V あたり 4mL で溶解) 60分以上
-------------------	---

★ 投与スケジュール

●1クール目: 21 日

処方用量

ベスポンサ

mg

↓

ベスポンサ

mg

↓

↓

1

8

15

(投与日)

/

/

/

1. 次回(21日)

/

●2 クール目以降: 28 日

処方用量

ベスポンサ

mg

↓

↓

↓

1

8

15

(投与日)

/

/

/

2～6. 次回(28日)

/

★ 注意事項

- ・合計 6 クール、1クール目と2クール目以降は日数が異なるため注意。
- ・1クールでのベスポンサの最大の総投与量は $1.8\text{mg}/\text{mm}^2$ 。
- ・infusion reaction 軽減のために投与 30 分前にプレメディ投与を行う。
 - ・プレメディ投与例(院内)
ポンタール 250mg 2 カプセル or カロナール 300mg 2 錠
セレスタミン配合錠 1 錠
分 1(投与 30 分前服用) 1 日分

●ベスポンサ

- ・光の影響を受けやすいため調製時、投与時は光(紫外線)を避けること
- ・溶解液は凍結を避け $2\sim 8^{\circ}\text{C}$ で遮光保存し、4 時間以内に使用。溶解から投与終了までは 8 時間以内とする。
- ・静脈閉塞性肝疾患(VOD)/類洞閉塞症候群(SOS)を含む肝障害の予防に「ウルソ」内服(適応外)
- ・休薬時のスケジュール

副作用による休薬期間	用量調節方法
7 日未満	同一サイクル内で次回投与を延期する (投与間隔は 6 日以上開けること)
7 日以上14日未満	同一サイクル内次回投与を行わない
14 日以上28日未満	初回発現:次サイクルの各投与量を 25%減量する 減量後の休薬期間が左記の場合:1クルールの投与回数を2回にする 2回へ変更後の休薬期間が左記の場合:投与中止
28 日超	投与中止を考慮